通巻第25号

2011

No.6

国立大学法人 九州工業大学

産学連携推進センター

annual NEWS

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
COLLABORATION CENTER

九州工業大学産学連携推進センター
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町１－１
TEL(093)884-3485 FAX(093)881-6207
e-mail: office@ccr.kyutech.ac.jp
http://www.ccr.kyutech.ac.jp/

九州工業大学産学連携推進センター飯塚分室
〒820-8502 飯塚市川津６８０－４
TEL(0948)29-7895 FAX(0948)29-7899
e-mail: iizuka@ccr.kyutech.ac.jp

九州工業大学産学連携推進センター若松分室
〒808-0196 北九州市若松区ひびきの２番４号
TEL(093)695-6150 FAX(093)695-6151
e-mail: hit-ml@lsse.kyutech.ac.jp

九州工業大学東京サテライトオフィス
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル1F
TEL (080)3186-2042

つなげる力が創る未来

Kyutech
KIT COLLABORATION CENTER

CONTENTS

ご挨拶　副センター長　小田部　荘司 …… 1
ご挨拶　若松分室長　　石井　和男 …… 1
ご挨拶　リエゾン部門　砂入　成章 …… 2
ご挨拶　リエゾン部門　神野　右文 …… 2
若手コーディネータとして１年を振り返って …… 3
トピックス …… 4
① 大学等産学官連携自立化促進プログラム中間評価で最上位の評価
② ソフトウェア著作権研究会の成果
③ 「安全で安心な教育研究」に向けた安全保障輸出管理体制を拡充しました
④ 最近の事業化具体例
⑴ 「くっきりトーン」を搭載した携帯電話
⑵ 室内蛍光灯で消臭・殺菌できる二酸化チタン光触媒のコーティングタイル
⑶ 売れ筋商品として期待される高音質音声ＬＳＩ
⑤ 九工大の研究者をＷＥＢ掲載しました
事業活動報告 …… 8
① 出前講座キャラバン事業
② 技術交流会●三木会　●研究会活動
③ 地域連携事業「北九州地域産業人材育成フォーラム」
④ 事業開発ビジネス講座
⑤ 新技術説明会
⑥ 地域産学官連携勉強会
⑦ 第２回地域産学官連携シンポジウム
⑧ 平成22年度ビジネスプランコンテスト
⑨ 知財ＤＮＡ研修会
⑩ 研究テーマ探索支援研修
⑪ 知的財産セミナー
⑫ 先行特許調査セミナー
⑬ ニーズ・シーズ研究会
⑭ 第6回環黄海産学官連携大学学長フォーラム
⑮ 大田広域市（韓国）で技術交流会
⑯ 台湾での産学連携ネットワーク拡大中
⑰ 中津商工会議所との産学連携事業
⑱ 八女市と包括連携協定
⑲ 西日本シティ銀行と産学連携協力協定
⑳ 産学官金連携の覚書
出展、開催事業等一覧表 …… 25
平成22年度共同研究一覧 …… 26
コーディネータ＆職員紹介 …… 32

副センター長就任ご挨拶

大学院情報工学研究院　電子情報工学研究系 教授　小田部　荘司

これまでの産学連携活動では飯塚市が行っている二水会（ニーズ会）にたびたび出席し、いろいろなことを勉強させていただきました。私自身の専門は超伝導材料の評価や応用技術です。超伝導は最先端の大規模な研究、たとえば核融合炉や粒子加速器で使われていますが、今後はもっと広く応用が進むものと考えられています。1986年に発見された銅系酸化物超伝導体の線材化の研究が進み、実際に応用に使える線材が製品化されてきています。液体窒素中で200A通電できる線材を使えば何かできそうな感じがします。今までは大企業しか使えなかった技術がもっと広く多くの企業（地元企業、中小企業）で製品化、事業化できそうです。この例のように最先端の研究を行っている大学には将来使えそうな技術が多くあり、産業界の皆様にさらに目を向けていただいていろいろな連携協力をしていく、そのお手伝いができるようになれば幸いと考えています。

一方で、大学院教育では「需要創発」というプログラムを動かしつつあります。これは大学院生が現場に行って自分たちの技術で解決できることを取り組もうとするもので双方にメリットが現れることを期待しています。

様々な意見をお寄せいただいて、本学の産学連携の発展に尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

若松分室長就任ご挨拶

大学院生命体工学研究科　脳情報専攻 教授　石井　和男

平成23年4月1日付けで若松分室長に就任しました。若松キャンパス内の大学院生命体工学研究科は昨年度設立10周年を終え、北九州学術研究都市も本年度10周年となり、産学連携センター若松分室も設立されて３年目を迎えます。

生命体工学研究科は生物や脳のしくみを解明し、その成果を工学的に応用して社会還元することを目的としています。研究内容も基礎研究から工学的応用まで幅広い分野を研究対象としています。有名な例では、マジックテープや蓮の葉のロータス効果を利用した撥水技術等、生物から着想を得た研究が産業化された例は数多く、本研究科は多くの可能性を秘めています。発足当時は生命体を冠にかかげる研究科はありませんでしたが、この頃は似たような名称の研究科も設立され本学の取り組みの先進性を示しています。

私は九工大情報工学部に赴任、生命体工学研究科への異動と、この15年間が瞬く間に過ぎ、周囲の環境も大きく変化しました。この間、運良く九工大COEにおいてプロジェクト研究に携わることができ、様々な経験をしました。また、国立大学が独立法人化され国からの予算が削減されている状況下では、外部研究資金の獲得や産学官連携がより強く求められており、産学連携センターの役割が益々重要になっています。

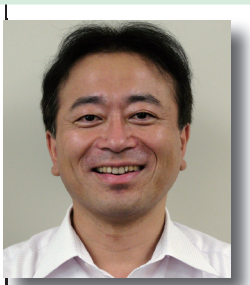
私自身、NEDO等のプロジェクトを通じて研究における産学官連携の重要性を認識しています。産学連携推進センターには、外部研究資金の獲得や特許申請、ロボット輸出入における該非判定等を通じて大変お世話になりました。今後は逆の立場で、生命体工学研究科の研究成果を社会還元するための窓口の役割を果たし、産学連携を通じて九州工業大学及び北部九州地域の研究開発の一助となれますよう、尽力いたします。今後とも産学連携センター若松分室への一層のご支援ご指導のほどよろしくお願いいたします。

地域連携マネージャー就任ご挨拶

産学連携センター　准教授　砂入　成章

平成23年7月1日から産学連携推進センターに配属になりました。これまで九州経済産業局で産学官の研究開発支援、情報、バイオ関連産業の振興など地域の企業活動の支援を担当してきました。センターでは九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）、中小企業との産学連携事業（共同研究事業）、経済産業省等の補助金相談業務など地域企業等と大学との連携に関する様々な業務を担当致します。リーマンショック後、ようやく企業活動が立ち直る中で今回の東日本大震災が発生しました。日本経済が以前から抱えていた構造的な課題に加え、産業の空洞化が懸念されています。こうした中で日本が活力を取り戻すためには、今後の「成長の芽」を生み出していくことが必要です。九州工業大学は工業系総合大学として地域から信頼される大学を目指して地域との連携を深めています。まずは、第３木曜日に開催している九州工業大学技術交流会（無料セミナー）「三木会」に参加されませんか。新たな出会いが未来へのイノベーションのスタートになるかもしれません。どうぞ宜しくお願い致します。

九州工業大学と北九州市の連携強化に向けて！



産学連携推進センター　客員准教授　神野　右文

1901年、官営八幡製鉄所がこの地に誕生すると、製鉄業を根幹として多くの工業分野で新技術、新製品が生まれ、わが国の近代化に大きな貢献を行いました。北九州市は、この製鉄業を中心に、「ものづくりの街」として発展してきました。

九州工業大学は、1909年に前身の明治専門学校として戸畑に設立され、これまで幅広い分野に多くの技術者や研究者を輩出し、地域の発展と日本のものづくりに貢献してきました。

北九州市では、経済成長の過程で、苦い公害克服を経験し、そこで培った環境保全の技術などを活かした海外での取組みを、地元の企業や大学等と協力し積極的に進めています。平成20年7月には、国から「環境モデル都市」に認定され、世界の環境首都として、発展著しいアジア諸国からその役割と期待がますます高まっています。

今後も「北九州スマートコミュニティ創造事業」など低炭素社会の実現と、地域の発展に向けた先導的なプロジェクトを推進していくためには、豊富な研究成果を保有し、多分野にわたる研究に取り組む九州工業大学をはじめとする教育研究機関や地元企業との連携がますます重要になっています。

このため、今年４月、北九州市から九州工業大学の産学連携推進センターに派遣され、大学や企業との情報交換や技術交流を図り、地域産業の振興に向けた取組みを進めています。

このような取り組みは初めてですが、全力で取り組んでまいります。皆様方のご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本学は、平成22年度4月より地域産学官連携科学技術振興事業補助金（イノベーションシステム整備事業｛大学等産学官連携自立化促進プログラム【コーディネータ支援型】｝）の実施機関に採択されました。本事業は大学等が自立した産学官連携活動に必要な基盤の構築・強化に資するために、産学官連携コーディネータを雇用して行う産学官連携促進活動を支援し、大学等が産学官連携活動を自立して実施できる環境の整備を図ることを目的としたものです。

本学では、ソフトウェア専任のコーディネータの育成し、大学が創出するソフトウェアをシーズとした産学官連携と産業界への技術移転システムの成功モデルを構築することを目指した取り組みを平成24年度末までの３年間にわたり行います。これに伴って平成22年4月から若手のコーディネータ・１名を採用しました。なお、平成22年度の公募には、105件の応募があり、49件（うち九州地区は４件）が採択されています。

以下は本学で採用になった荻原康幸氏からの報告です。

「若手コーディネータとして1年を振り返って」

コーディネータ　荻原　康幸

平成22年4月1日より、ソフトウェア専任のコーディネータとして産学連携推進センターで活動しています。一年間の活動を少しご紹介いたします。

私はこれまで企業の経験もなくコーディネータになり、右も左もわからない状態でした。そのため企業経験とコーディネート活動のノウハウ修得を目的として、新規事業開発・新製品開発を手がけているコンサルティング会社において３ヶ月間インターン活動を行いました。インターン活動では、全国の企業を訪問している社長に同行する機会を得ることができました。会社の中にいるよりも全国を飛び回っていることの方が多い社長のフットワークの軽さに、大変驚きました。

外部資金獲得活動として、学内教員への競争的資金獲得の支援を行い、何とか１件の採択を得ることができました。初めての成果ということもあり、採択の知らせを聞いたときは、コーディネータとしての第一歩を踏み出せた気がして、大変嬉しく思いました。

また、ソフトウェア技術移転の成功例を知るために、米国ワシントン大学の技術移転機関を訪問し、ソフトウェア著作権の取扱方法やソフトウェアのライセンス活動内容等のヒアリング調査を行いました。

産学官連携戦略展開事業「機能強化支援型」事業の一環であるソフトウェア著作権研究会に参加し、ソフトウェア著作権を考慮したソフトウェア取扱の新規則を作成しました。

その他にも様々な活動をさせていただいた結果、平成22年度は当初の目標を十分に達成することができ、文部科学省より最上位評価である「S」評価を頂くことができました。

これまでの活動を通して、産学官連携コーディネータには技術に対する知識、フットワークの軽さ、大学の研究者や企業担当者とのコミュニケーション能力が必須の能力であることを認識しました。

これからは、コーディネータとしての能力修得に努める一方で、実務である外部資金獲得活動や産業界のニーズと大学のシーズをマッチングさせる活動等にも取り組み、一歩一歩コーディネータとしての実績を積んでいきたいと思います。また、ソフトウェア著作権取扱の新規則の運用が開始されるのに伴い、教職員への学内周知活動や相談対応も行って参りたいと思います。

まだまだ学ぶべきことが山積していますが、一日も早く、一人前のコーディネータになれるよう努力して参りたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

トピックス

1 大学等産学官連携自立化促進プログラム中間評価結果で最上位の評価

本学は、平成22年7月23日、文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】の中間評価結果で最上位の評価を受けました。

評価の考え方は、S，A，B，C，Dの５段階。本事業の「特色ある優れた産学官連携活動の推進」22件のうち、最上位S（特に優れた取組を行っており、現行の努力を継続的に続けることにより当初目的を十分に達成することが可能と判断される。）の評価を受けたのは、本学を含め３件です。

本学の評価内容は次のとおりです。

> 学内体制整備や海外との連携が順調に進んでおり、ソフトウェア著作権の活用、モードⅡ型研究の推進、ニーズ・シーズ研究会、出前講義キャラバン、ベンチャー支援など特色ある取組が着実に進められており、非常に評価できる。
> また、東アジアとの産学官連携の展開の中で韓国との連携を重点推進していることはユニークであり特色ある活動として評価できる。
> 今後は、質を重視した産学官連携活動をより一層推進し、フォローアップ人材の確保に努めるとともに、自立化に向けて、自治体、地域産業界をも巻き込み、実現可能な資金調達の構築を期待したい。

本件の文科省ＵＲＬは http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/07/1296035.htm

2 ソフトウェア著作権研究会

ソフトウェア著作権研究会（委員長・吉田隆一 情報工学研究院 教授）は、大学の知的財産である計算機ソフトウェアの産業界での有効利用、研究者の知的活動を支援することによる学術研究の振興を目的としたソフトウェアの管理指針を策定するために発足しました。

その成果は、九州工業大学プログラム等取扱細則及び、それに関するガイドラインとしてまとめられ、平成23年6月に制定、施行の運びとなりました。この細則のポイントは、以下の通りです。

- 対外的に、著作者、著作権者が大学法人か、職員・学生個人かを明確に規定しました。これにより、権利関係がはっきりし、産業界への技術移転が容易となります。
- 学内的には開発者の権利を十分に尊重しました。たとえ法人著作のプログラムであっても、学術研究のための利用は自由としました。また、大学へ活用申請を行うことにより、開発者自身がソフトウェアを活用することが認められます。
- 他の産業財産権と比較した場合のソフトウェアの特殊性を考慮しました。特許と異なり、手続きの必要がなく権利が発生しますので、届出などの学内手続きを定めました。また、ソフトウェアは、常にメインテナンスが必要となりますので、開発者自身にメインテナンスの協力を得ることにしました。
- 大学での研究において学生は重要なメンバであることを認識し、学生を教職員に準じた権利があると認めました。また、研究室内の先輩・後輩の間でソフトウェアを引き継ぐにあったての手続きを定めました。

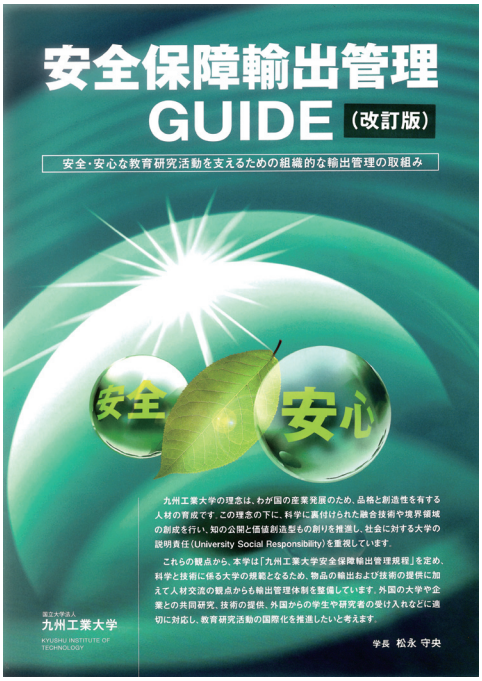
今後は、本細則により、有効にソフトウェアの著作権を管理するとともに、その活用を図る活動を継続する予定です。

3 「安全で安心な教育研究」に向けた安全保障輸出管理体制を拡充しました！

大学の教育研究活動では、「海外大学・研究機関等との共同研究」、「学会誌への論文発表」、「学会・国際会議等での発表や展示」、「技術貨物の海外への発送」、「外国人研究者の受入れ」、「技術情報のやりとりを伴う海外出張」などが日常的かつ頻繁に行われています。九州工業大学では、平成20年10月に22年ぶりの「外国為替及び外国貿易法（以下、外為法）」の改訂に呼応して、既に規定していた学内の「安全保障輸出管理規定」とその「実施手順」を見直し、日常の教育研究業務の中にある“危険”に研究者と事務組織が一体となって対処するための自主管理体制を整備するとともに、平成22年4月1日から本格的な学内実施と注意喚起・周知の徹底を進めてきました。平成22年度末に初めて行った安全保障輸出管理に関する学内の業務監査でも、規定に即した運用管理が行われていることが確認されたところです。

更に、様々な教育的配慮等の十分な検討のため、規定と手順の整備に時間がかかっていた「留学生の受入れ」に際しての安全保障輸出管理についても、平成22年度中に整備を完了し、平成23年度から実施・運用を開始しました。これに伴い、それまでの「安全保障輸出管理GUIDE」及び「知っておきたい輸出管理」の両冊子も改訂しました。

「貨物」、「技術」、「外国人研究者」、「留学生」、「海外出張」など一連の安全保障輸出管理について包括的な体制整備が一応完了し、日常的な実際運用に入りましたので、引き続き、「安全で安心な教育研究活動」の実現に向けて取り組んで参ります。



「安全保障輸出管理GUIDE（改訂版）」

「知っておきたい輸出管理：安全保障輸出管理ハンドブック（改訂版）」

4 最近の事業化具体例

①「通話音質の高域補間技術（くっきりトーン）を搭載した携帯電話発売」

近年進行中のデジタル化により音質が劣化するという問題がありますが、産学連携推進センター若松分室の佐藤寧教授は、平成16年に世界で初めて、倍音予測技術による高域補間を提案し、搭載する機器の演算処理能力に応じた数種類のアルゴリズム特許を出願し、プログラムを開発し、携帯電話や音楽プレーヤなどで採用されました。この技術の展開として、シャープと共同開発した通話音質の高域補間技術（くっきりトーン）を搭載した携帯電話（PANTONE3 SoftBank 001SH）が、平成22年11月3日（水）に、ソフトバンクより発売されました。「くっきりトーン」の機能により、通話相手の声が低い、こもっているなど聞き取りにくい場合でも、通話音声帯域内の音声から、圧縮により失われた帯域を拡張／補間して、本来の音声に近づけることで、くっきりと聞きとりやすくなります。

ネット上での売り上げランキング上位を獲得した売れ筋の商品です。

②「室内蛍光灯でも消臭、殺菌できる二酸化チタン光触媒のコーティングに成功」

㈱フジコー、九州工業大学横野研究室と北九州市立大学森田研究室は、可視光活性光触媒と低温高速溶射技術を利用した生活環境改善製品の共同研究開発を行い、タイルへの可視光活性二酸化チタン光触媒のコーティングに成功しました。このタイルは、室内の蛍光灯の光でも可視光活性を有し、高い消臭、殺菌機能を発現します。また、床材へのコーティングは、脱落、剥離により耐久性が問題となりますが、低温高速溶射技術では二酸化チタンがタイルに強固に密着しているので、優れた耐久性を有しています。㈱フジコーは、この製品をマスクシールドタイルとして、平成22年4月から本格的に販売開始しました。

北九州市のJR駅、モノレール駅、病院、銀行、学校、企業等のトイレ等で施工され、それまで悪臭を放っていたところで、臭いが消えだけでなく、著しい殺菌効果が確認されました。この技術は、この生活空間の浄化に顕著な効果を発揮し、伝染病の流行を防ぐ対策としても有効な手段となることが期待されます。また、消毒液や塩素洗浄の使用量も削減可能です。

北九州テクノセンター1Ｆトイレ

③「ＯＫＩセミコンダクター（ローム）と音声合成ＬＳＩの共同開発」

産学連携推進センター若松分室の佐藤寧教授は、倍音予測技術による高域補間技術の展開として、ＯＫＩセミコンダクター（ローム）と音声合成ＬＳＩの共同開発を行い、海外競合品に対し品質、コスト面で大幅な差別化を実現し、ＯＫＩは本技術をＨＱＡＤＰＣＭと命名し、高音質音声ＬＳＩ（ML2282□/ML2286□シリーズ等６機種）として販売しています。家電製品のユビキタス化により音声案内機能を搭載する家電製品用ＬＳＩや、電気自動車のエンジン音が小さい欠点を補う為の音声ＬＳＩ用に高性能音声ＬＳＩの需要が高まっていますが、効率的な産学連携により短期間で試作品を完成させ、量産化から中国市場への投入まで至ることができました。本製品は、市場の評価も高く、海外自動車企業も採用を決定するなど、売れ筋商品として期待されています。

5 九工大の研究者をWEB掲載しました

「あっ、こんな研究をしているんだ、あんな研究者がいるんだ・・・」

http://www.kyutech.ac.jp/professors/

九州工業大学ではこれまで研究者紹介をホームページ上で行ってきました。また、昨年度は「九州工業大学の研究者」という冊子にまとめ発刊しました。

平成23年4月より、専門用語や学術用語を使った説明だけでなく「わかりやすく、親しみやすい研究者紹介」として「九州工業大学の研究者」私たちはこんな研究をしています・・をWEB上に公開しました。九工大の研究者情報が活用され産学連携が進むことを期待しています。

本学の研究者の大半が網羅されていますので「産学連携の可能性はないか？」「こんな事で困っているけれど研究者の知識や経験を使えないか？」「採用する学生はどんな教育を受けているのだろうか？」と様々な観点からお調べになる時にお使いいただけます。

国内、海外でも屈指の研究をしている研究者から若手の意欲溢れる研究者までをご紹介しています。

事業活動報告

1 出前講座キャラバン事業

九州工業大学産学連携推進センターは、文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラムの採択を受け、平成21年度に続き、大学等の研究成果を効果的・自律的に社会につなぐための産学連携活動の一環として「出前講座キャラバン」実施しました。

第１回は８月に福岡市、第２回は11月に大分市、第３回は、２月に飯塚市おいて、何れも地元自治体や商工会議所等との協力の下に実施しました。当日は、本学の保有するシーズ紹介に加えて、本学との産学連携の成功事例を企業から発表をして頂き、参加者の高い関心を集めることができました。

松永学長挨拶（飯塚会場にて）

飯塚会場の様子

【開催の概要】

開催日	開催場所	講　師	演　題
平成22年 8月27日	福 岡 市	①本学知的財産部門長　中村邦彦 ②本学客員教授　田中洋征 ③福岡工業大学教授 ｽｳｰﾁｭｰ･ｸﾗｳﾃﾞｭｳﾞｧﾚﾃｲﾝ 氏 ④福岡工業大学教授　松尾一壽氏	・地域で活かしたい九工大の新技術紹介 ・産学連携の成功事例に学ぶ事業化のポイント ・コロイダルダンパに関する研究 ・静電誘引形インクジェットの研究
平成22年11月12日	大 分 市	①本学学長　松永守央 ②本学客員教授　田中洋征 ③本学知的財産部門長　中村邦彦 ④本学工学研究院准教授　中尾　基 ⑤第一施設工業(株) 代表取締役社長　篠原　統氏	・日本再興を目指した産学官連携への期待 ・成功するための実践的産学連携 ・大学シーズ活用促進セミナー ・車載用途向け絶縁層埋め込み型SiCデバイス創製に関する研究 ・中小企業は産学連携にどう取り組むべきか？
平成23年 1月20日	飯 塚 市	①本学学長　松永守央 ②本学客員教授　田中洋征 ③本学知的財産部門長　中村邦彦	・産学官連携による地場産業の世界展開 ・失敗しないための実践的産学連携 ・九工大の特許技術シーズの紹介

2 技術交流会（キューテックコラボ）

産業界とのより一層の連携強化を図るため、平成19年3月に「九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）」が発足し、４年間で会員数は法人会員、個人会員合わせて400件を近くとなりました。

平成22年度も、月例の無料セミナー「三木会（さんもくかい）」の開催や会員向けメールマガジンの配信などによる情報提供事業などを継続的に実施しました。

また、新規事業として無料技術相談会の定期開催や、会員相互のネットワークづくりなどを目的に、三木会の講演終了後に「会員10分間スピーチ」を実施し、会員によるプレゼンテーションを行っています。

この他、本学の松永学長、鹿毛副学長が企業を訪問して、キューテックコラボ会員企業へのヒアリングや非会員企業への入会案内などを行っており、23年度も継続的に実施する予定です。

また、大学の研究室等が主催する各種「研究会」活動の支援も引き続き行っており、22年度も「粉体工学研究会」「ものづくり研究会」「環境・リサイクル研究会」などが定期会合を開くなどしました。

三木会（講演会）の様子

交流会の様子

●「三木会（さんもくかい）」の開催

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者の交流の場として、平成17年度から毎月第三木曜日に実施している「三木会」を引き続き開催しました。22年度は11回開催で延べ592名にご参加いただきました（３月は東日本大震災の影響で中止となりました）。

「三木会(さんもくかい)」の開催状況

開催日	テーマ	講　師	
		所　属・役　職（講演当時）	氏　名
平成22年 4月15日	「地域産業成長のための戦略」	中部経済産業局　総務企画部長	獅山　有邦 氏
	「九州工業大学の教育・研究戦略」	九州工業大学　学長	松永　守央 氏
平成22年 5月20日	「次世代エネルギー社会を考える『NEWLD』の提案 」	九州工業大学　機械知能工学研究系 教授	橘　武史 氏
平成22年 6月17日	「成長著しい新興国市場へのビジネス展開」	環境テクノス㈱　代表取締役	鶴田　暁 氏
平成22年 7月15日	「無添加石けんの次なるステップ-作り手の思いが伝わる無添加石けんづくりを目指して-	シャボン玉石けん㈱　代表取締役社長	森田　隼人 氏
平成22年 8月19日	『超小型衛星が切り開く「宇宙参入への道」』	九州工業大学工学研究院　教授	趙　孟佑 氏
平成22年 9月16日	「アジアの低炭素社会を目指して～アジア低炭素化センター（アジアグリーンキャンプ）の概要～」	アジア低炭素化センター 技術移転マネジャー	飯塚　誠 氏
平成22年10月21日	「ごみ溶融炉開発と環境ビジネス展開」	新日鉄エンジニアリング㈱ 環境ソリューション事業部長	長田　守弘 氏
平成22年11月18日	「日本の水ビジネスの海外展開戦略」	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術開発推進部長	中村　吉明 氏
平成22年12月16日	「環境にやさしい社会を目指した九州電力の取り組み」	九州電力㈱　技術本部　総合研究所長	茂田　省吾 氏
平成23年 1月20日	「九州工業大学出前講座キャラバン in 飯塚」	九州工業大学　学長	松永守央 氏 他
平成23年 2月17日	「九州経済成長アクションプラン ～アジアパワーを取り込み成長する九州～」	九州経済産業局　総務企画部 企画課長	植木　謙治 氏

●研究会活動

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）では、会員企業、研究室等が主催する研究会を支援しています。現在、分野、テーマ別に次のような研究会が活動中です。

「研究会」の活動状況

名　称	担当教授	名　称	担当教授
粉体工学研究会	鹿毛　浩之 教授、 梅景　俊彦 教授	エネルギー研究会	金元　敏明 教授、 三谷　康範 教授　他
時代を拓く新しい機械材料について共に考える会（新材料研究会）	野田　尚昭 教授　他	機能性複合材料研究会	西尾　一政 教授
ものづくり研究会	小森　望充 教授　他	インターンシップ研究会	仲間　浩一 教授
バイオ機器研究会	竹中　繁織 教授		

3 地域連携事業「北九州地域産業人材育成フォーラム」が始動！

山崎　朖 特任教授

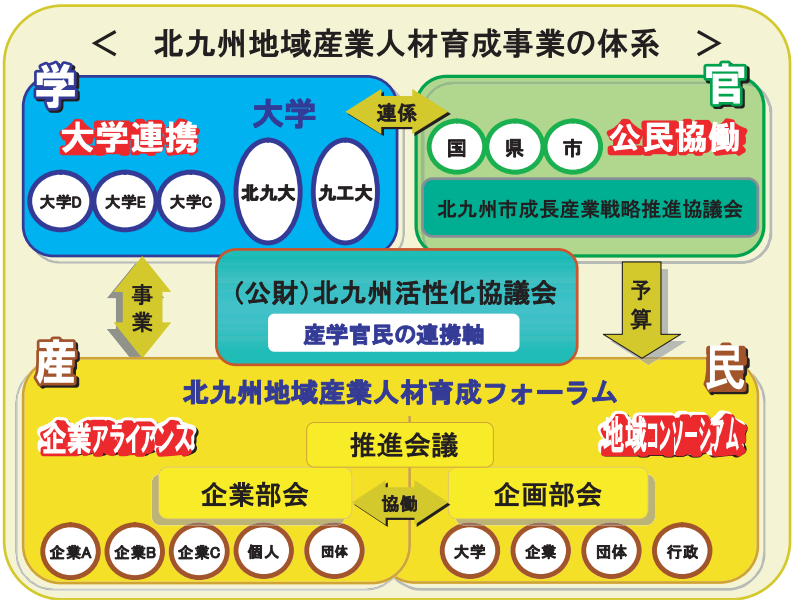
北九州地域の産業基盤である中堅・中小企業の技術開発力・経営力の強化と高度人材の地元定着を図るために、産学官連携による産業人材育成の地域システムの構築を目指す「北九州地域産業人材育成フォーラム（会長；KPEC西村韶道会長）」が始動しました。

平成23年度は、九工大（全学部）と北九大（国際環境工学部）を対象にした合同長期インターンシップや社会人プログラムの開発等の事業を実施します。

これは、北九州地域の活性化を目的に活動をする（公財）北九州活性化協議会（KPEC）が、九工大等の工学系４大学の産学連携センター長及び企業で構成した「KPEC産学連携研究会（委員長；山崎朖九工大産学連携推進センター特任教授）」の研究結果を踏まえ、北九州市が設置した「北九州成長産業戦略協議会（座長；鹿毛浩之九工大副学長）」との政策連携による予算化も図り、KPECが産学官民の連携軸となり「大学」「企業」「地域」の三位一体型の実践的産業人材育成モデルを編成しようとするものです。

地域の大学と産業界のそれぞれが保有する環境と機能を再確認し、血の通った人材育成の実現のために、大学の制度や事業と企業のニーズのすり合わせを行い、大学と地域の双方が共に発展する好循環を生み出すことを目指します。

今後、有志企業のアライアンス「企業部会」の編成などを進め、北九州地域の産業人材育成プラットホームの構築を図ります。



4 事業開発ビジネス講座　～これからの10年を見据えた企業戦略～

中小企業応援センターとの共催で、社会人向けの公開講座（全５回コース）を平成23年2月から3月にかけてKTI小ホール（AIMビル）において、開催しました。

本講座は、広く社会人を対象とした公開講座で、平成17年度から実施しております。

平成22年度は、時代の潮流を踏まえ、中長期の企業戦略、次世代製品、新市場開拓などをテーマに、産学官の有識者を招聘して開催しました。

第1回 講演する 谷　明人 氏

第5回 多喜義彦 氏による公開コンサルティング

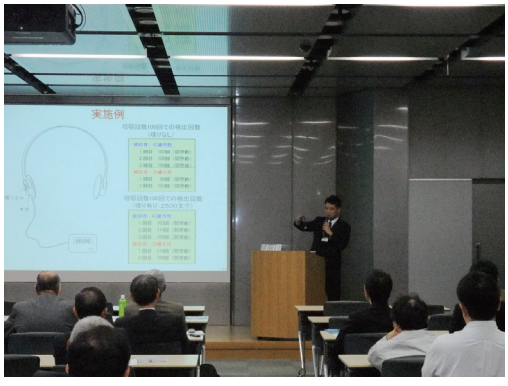
開催日	テーマ	講　師	
		所　属・役　職（講演当時）	氏　名
平成23年 2月 1日	産学連携の成功事例と、そこから学ぶもの	経済産業省　大臣官房参事官 （技術・高度人材戦略担当）	谷　　明人 氏
平成23年 2月 8日	新技術開発・新市場開拓で、”脱・下請”を目指す	宮本工業㈱　代表取締役社長	宮本　尚明 氏
平成23年 2月22日	『ものづくりは演歌だ』～義理と人情をお届けします～	㈱筑水キャニコム　代表取締役社長	包行　　均 氏
平成23年 3月 1日	これからの10年を描く戦略ビジョン	広島大学大学院社会科学研究科 教授・博士（商学）	井上　善海 氏
平成23年 3月 8日	新しいビジネスモデルで第三創業 ～開発の鉄人が語るこれからのビジネスモデル～	システム・インテグレーション㈱ 代表取締役社長 （九州工業大学客員教授）	多喜　義彦 氏

5 新技術説明会を開催しました

第１回（北九州市発ライフイノベーション新技術説明会）

平成22年11月18日(木)、科学技術振興機構ＪＳＴホール（東京　市ヶ谷）において、(財)北九州産業学術推進機構主催により、産業医科大学、北九州市立大学と共に北九州市発ライフイノベーション新技術説明会を開催しました。

本学からは、工学研究院 松田教授及び生命体工学研究科 前田助教が新技術の内容について説明を行いました。北九州地域の大学との合同開催は初の試みでしたが、当日はのべ200名を超える多数の企業関係者に出席をいただきました。



会場内での松田教授の説明

第２回（本学単独・新技術説明会）

平成22年12月17日（金）、科学技術振興機構ＪＳＴホール（東京　市ヶ谷）において、九州工業大学新技術説明会を開催しました。

新技術説明会は、発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行うもので、今回は「安全・安心な情報化・エコ社会に貢献する九工大技術シーズ」と題して、５回目の開催となりました。

今回は、企業関係者から、延べ400名を超える申し込みがあり、当日も多数の企業関係者の出席をいただきました。多数の関係者を前に、本学の７名の各教員からも熱のこもった説明が行われ、企業担当者も熱心に聴講していました。

松永学長の挨拶

発表後には技術相談も行われ、今後、共同研究、技術移転等、産学連携活動への更なる展開が期待されます。

東京地区での本学の技術内容を一括して紹介するこのような機会は大変貴重であり、関係機関の支援を受け、来年度以降も引き続き実施していく予定です。

6 地域産学官連携勉強会を開催しました

文部科学省産学官連携自立化促進プログラムの一環として、平成21年度に引き続き、北九州市内の大学・高専等による地域産学官連携勉強会を開催しました。本勉強会の参加校は、福岡市内の２大学を含めた11大学・高専等です。平成22年度は各大学等の要望を踏まえて、利益相反、安全保障輸出管理、共同・受託研究等事務職員等の能力向上を目指した事例研究を中心に計５回開催しました。

勉強会の風景

勉強会の風景

【勉強会の活動状況】

回	内　　容
第１回	勉強会の進め方等について 利益相反マネジメント（事例と概観）
第２回	トピックスの紹介（産業医科大学） 九州工業大学における輸出管理の取組みについて
第３回	トピックスの紹介（北九州市立大学） 九州工業大学の共同研究・受託研究業務について 九州工業大学の国際共同研究・受託研究等の契約業務について
第４回	トピックスの紹介（西日本工業大学） 九工大の産学官連携活動における特許関連業務について
第５回	トピックスの紹介（福岡工業大学） 利益相反マネジメント（事例の解説等）

7 第2回地域産学官連携シンポジウムを開催しました

産学連携推進センターは平成20年度から大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）「特色ある優れた産学官連携活動の推進」に採択されています。

今回は２年間の活動に基づく中間評価を受けて３年間の取組の成果を報告、今後の方向性を探るとともに、地域の企業、自治体、大学及び支援機関と連携を深めることを目的として、平成23年3月22日（火）に「第２回地域産学官連携シンポジウム」を開催しました。

第一部は産業技術総合研究所 九州センター所長　宇都浩三氏の基調講演の後、九州工業大学の産学連携の取組、成果概要報告を研究・産学連携担当　鹿毛浩之副学長から、プログラム著作権研究会の活動については、大学院情報工学研究院　吉田隆一教授、安全保障輸出貿易管理については、産学連携推進センター　鈴木勇次研究職員からそれぞれ報告を行いました。

第二部は、モードⅡ型産学連携の展望～九州工業大学の産学連携活動にモノ申す～と題し、外部から４名のパネリストを迎え、パネルディスカッションを実施、限られた時間ではありましたが、会場からは本学の産学連携活動に対する様々な意見・提言等をいただきました。

当日は、100名近くの参加があり、産学連携推進センターでは意見等を踏まえ、地元産業界にも更に貢献できるよう、今後の諸活動に反映させていく予定です。

宇都氏の基調講演

鹿毛副学長からの報告

鈴木研究職員

進行役の山田若松分室長

会場の様子

8 九州工業大学ビジネスプランコンテストの発表会

九州工業大学では、新たなベンチャービジネスの芽を発掘し、大学発ベンチャーの活動を一層促進するとともに、大学内外の研究成果を活用できるベンチャースピリットを持った人材育成を図ることを目的にビジネスプランコンテストを実施しています。

平成22年度の発表会では、本学の大学院生から３件のビジネスプランが発表され、外部審査委員を含む審査委員会による審査の結果は以下のとおりです。

○グランプリ：
　九州工業大学大学院生命体工学研究科　佐々木将晴　氏
○特別賞　　：
　九州工業大学大学院生命体工学研究科　徳永　　誠　氏
○特別賞　　：
　九州工業大学大学院生命体工学研究科　澤　　和隆　氏

記念撮影（前列が発表者、左から順に澤氏、佐々木氏、徳永氏

発表の様子

9 若手研究者の知財DNA研修を実施

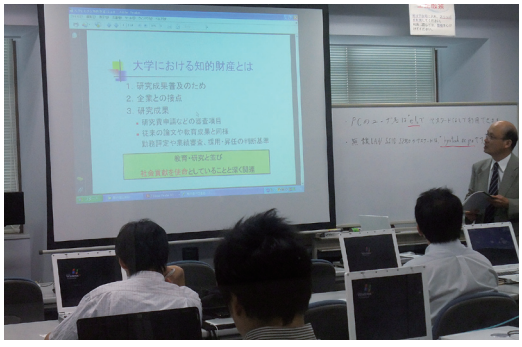
平成22年9月21日（火）、10月7日（木）、10月21日（木）の３日間、戸畑キャンパス　総合研究棟　EL演習室　において、知財DNA研修を実施しました。

知財DNA研修は、特にこれから多くの発明の創出が期待される若手研究者の知的財産能力の向上を図り、そのDNAを研究室に定着させ、知的財産に強い研究室を育成することを目的として実施しているものです。

本学で得られた手法を他大学へ普及させる取組みとして、昨年度から北九州市内の機関へ参加を呼びかけてきました。今年度は学内から９名のほか、北九州高等専門学校から１名、北九州市立大学から２名の参加がありました。

参加者は弁理士を活用してより強い特許を出すことを目指し明細書の作成等について講師から指導を受けました。

研修の様子１



研修の様子２

10 研究テーマ探索支援研修を実施しています

研究テーマ探索支援研修は、学内の研究者７名を対象として、現状の研究テーマの方向性を見極め、研究の強み・弱みを明確化し、その解決策を模索する中で、研究テーマを更に強くし、競争的資金獲得、共同研究先の発掘を目指して実施しています。

8月19日（木）に戸畑キャンパス　第三会議室で全体説明会を実施しましたが、今年度末まで外部機関の市場分析等踏まえ、本学のコーディネーターとともに、公募事業への申請に向けた取組を行っていきます。

全体会議の様子

11 知的財産セミナーを実施しました

産学連携推進センターでは、学内における知的財産の創出、保護、活用に対するマインドを高めることを目的として、九州経済産業局、九州知的財産戦略協議会の支援を受け、知的財産セミナーを実施しています。

今回は、平成22年11月29日（月）　飯塚キャンパス AV講演室にて、経営法律事務所「北斗」（福岡市）弁護士　田畠光一氏を講師としてお招きしました。田畠弁護士は、本研究会のメンバーであり、本学情報工学部機械システム工学科卒業生です。

この講演は、戸畑キャンパス、若松キャンパスにも同時中継され、当日は３キャンパス併せて50名近くの教職員、学生が参加。田畠弁護士の多彩な経験に基づく、わかりやすい説明に終始熱心に耳を傾けていました。また、本学の卒業生ということもあり、質疑応答も和やかな雰囲気の中で活発に行われました。

参加者からは、わかりやすい内容だった、機会があればまた別のテーマで話しを聴いてみたいといった意見が多く寄せられていました。

鹿毛副学長の挨拶

吉田教授による講師紹介

質疑応答での田畠弁護士

12 先行特許調査セミナーを開催しました

平成23年1月14日(金)、産学連携推進センターは、先行特許調査能力向上を図るため、特許庁電子図書館を用いた特許調査方法、ESP@CENETを用いた外国公報の入手方法についてセミナーを実施しました。

本セミナーは、平成20年度から実施している大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）「特色ある優れた産学官連携活動の推進」の一環として企画したもので、北九州知的所有権センター　特許情報活用アドバイザー　浦井正章氏及び産学連携推進センター　中村知的財産部門長から、データベース検索方法等について説明を行いました。

セミナーは、戸畑キャンパス附属図書館ＡＶホールにおいて実施、飯塚、若松キャンパスにも中継され、学外企業関係者からもご参加をいただきました。

浦井氏の説明

中村部門長の説明

13 ニーズ・シーズ研究会を9回開催しました

前年度に引き続き平成22年度も、産学連携のマッチングを推進するために企業のニーズと大学のシーズを研究する「ニーズ・シーズ研究会」を、年間で合計９回開催しました。

主な活動内容として、産業界との共同研究や技術移転の候補となる大学の技術シーズの研究のために研究者を招聘して講義をお願いして、５月に金元先生による「水力、波力、風力発電」、６月に松下先生による「超伝導の応用」、７月に西田先生による「ポリ乳酸リサイクル」、９月に恵良先生の「金属加工」、３月に中尾先生の「SOI基板を用いたSiC半導体」のシーズの研究会を実施しました。

この他に、知的財産部門の特許出願担当者からの直近の特許出願案件の紹介、競争的資金応募についての研究会、九工大と共同研究している地元企業からの研究進捗状況の説明会、地元企業から研究開発責任者を招いての企業のニーズの紹介、地元企業の工場見学会、経済産業省から講師を招いての国の産業施策の説明会等を実施しました。

技術ニーズを大学に開示しても良いという企業様には、ニーズ・シーズ研究会にお越しいただき、技術ニーズを紹介して頂ければ、専門分野の技術と九工大の技術シーズに精通したコーディネータが企業様の技術ニーズと大学の技術シーズとのマッチングをはかり、競争的資金の獲得や産学の共同研究に繋げる支援をいたします。

ニーズシーズ会　事例研究の様子

14 環黄海産学官連携大学長フォーラムが北九州で開催

平成22年10月13日（水）から14日（木）にかけて、北九州市のリーガロイヤルホテル小倉において、日本16、韓国13、中国６、計35大学の学長或いは副学長級の先生方120名以上が参加して第６回環黄海産学官連携大学学長フォーラム（以下学長フォーラム）が開催されました。

本学長フォーラムは九州経済産業局、韓国知識経済部、中国商務部及び科学技術部が主催し2001年から毎年開催している「環黄海経済・技術交流会議」の併設プログラムとして2005年から開催されているものです。学長フォーラムでは、環黄海、すなわち黄海を取り巻く日中韓３国間での「環黄海経済圏」の形成という経済・技術交流会議の趣旨を踏まえ、産学官交流を通じて、将来の高度産業人材の育成を本学は日本側大学の代表校を務めており、今回の北九州会合については、北九州市立大学とともに開催しました。

今回のテーマは北九州市のキーワードである「環境」の他、「地域連携」・「人材育成」を取り上げ、各大学の優れた取組みが発表されるとともに活発に討議されました。また、併催されたビジネスフォーラムとの合同セッションも実施され、松永守央学長が本学の取組みについて発表しました。

最終日に行われた第10回環黄海経済・技術交流会議本会議では、開催国代表校として松永学長が今回の学長フォーラムの総括報告を行いました。

平成23年の環黄海経済・技術交流会議は、次の当番国、韓国の大田広域市で11月15日～18日の日程で開催される予定です。

120名以上が参加した環黄海学長フォーラム

環黄海経済・技術交流会議本会議では総括発表する松永学長

15 韓国の先端技術集積地、大田広域市で技術交流会を開催！

平成22年8月24日(火)、本学が産学連携の国際展開において極めて重要と位置づけている韓国（太田広域市）で技術交流会を開催致しました。

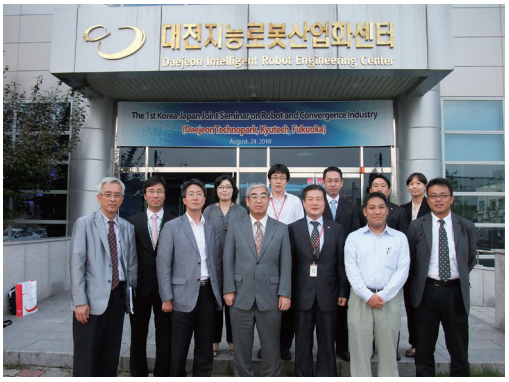
今回の技術交流会は、韓国で７機関目となる「産学連携の協力に関する覚書」を平成21年12月に取り交わした財団法人大田テクノパーク（イ・ジンオク院長：当時）との初の共同事業で、「大田地域と福岡地域におけるロボットおよびその関連産業に関する現状と動向」をテーマに開催したものです。

大田テクノパークは、中小企業庁、特許庁などの韓国中央政府機関や多くの大学、研究所、先端技術ベンチャー企業が集まる大田、忠南地域で、伝統産業の高度化や先端ベンチャー企業の育成などを促進する財団法人であり、本学は同機関との交流を通じて技術連携、技術交流会、およびワークショップの実施等を行うべく覚書を交わしました。

今回の技術交流会では、大田広域市に所在する韓国科学技術院（KAIST)、韓国電子通信研究所（ETRI)、韓国機械研究所(KIMM)の関係者を始め、ロボット関連企業などから、約40名が参加しました。日本側は、本学から鹿毛浩之産学連携推進センター長および菊地晋一国際部門長、生命体工学研究科から石井和男准教授（当時）が参加するとともに、産業界からは、株式会社安川電機（本社北九州市）のご協力により、同社技術開発本部開発研究所の井上康之技術担当部長（ロボット技術開発グループ）にご参加、発表頂きました。韓国側からは大田地域でのロボット産業に関する動向や研究機関や企業の取組みの紹介があり、日本側からは、福岡地域での関連プロジェクトの取組みや、産業用ロボットで世界的トップメーカーである安川電機での研究動向や次世代ロボットに関する取組みなどの報告がありました。

日本からの参加メンバーは、交流会の前後に、韓国最大の国立研究機関である韓国電子通信研究所（ETRI）や韓国機械研究所(KIMM)への訪問・見学も行い、大田地域の多くの方々と意見交換をすることができました。

今年度（平成23年度）は、本技術交流会の二回目として、９月下旬に北九州で開催するべく、現在準備を進めています。



技術交流会参加者とともに

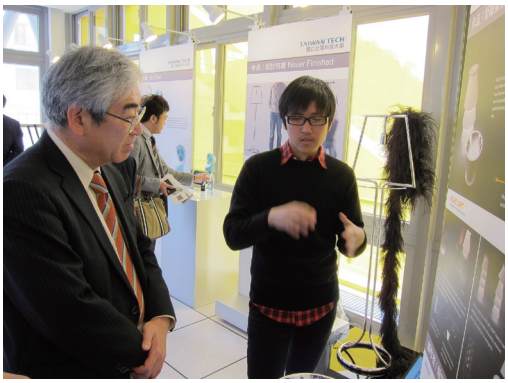
大田テクノパークのロボット展示スペースを見学

16 台湾での産学連携ネットワーク拡大中！

産学連携推進センターでは、東アジアの関係機関を中心に国際的な産学連携活動を積極的に推進しています。関係機関７機関と既に産学連携に関する覚書を締結し、各地で技術交流会を開催してきた韓国に対して、台湾でのネットワーキングは昨年始まったばかりです。

平成22年度末に、台湾北部（台北市）の国立台湾科技大学及び台湾南部（台南市）の国立成功大学で、産学連携推進部門との交流を実施しました。九州工業大学からは、鹿毛浩之センター長、佐伯心高リエゾン部門長、山田久文若松分室長（当時）、菊地晋一国際部門長（以上、産学連携推進センター）、高井修国際課長（事務局本部）が両大学を訪問し、今後の交流への足掛かりとすべく、お互いの大学及び産学連携活動の紹介を行ったところです。両大学とも、それぞれ台湾北部、南部の産学官連携推進の中心的役割を担う有力機関であり、本学の台湾での産学連携ネットワークのパートナーとして、今後更なる交流を進めていきます。

国立台湾科技大学での技術交流会
（中央前列左：鹿毛浩之センター長、右が国立台湾科技大学研発所の周宣雄所長）



（台湾科技大学）
様々な賞を獲得した学生の商工業デザインの学内展示会で学生の説明に聞き入る鹿毛浩之センター長

国立成功大学での技術交流会
（右から二人目が蘇慧貞副学長、三人目が鹿毛浩之センター長）

（国立成功大学）
Center for Technologies of Ubiquitous Computing and Humanity (TOUCH Center)
を見学

17 中津商工会議所との産学連携事業

●中津商工会議所・九州工業大学との産学連携交流事業 基調講演会が開催されました

愛宕久和中津商工会議所会頭の挨拶

講演する松永学長

平成22年11月22日(月)、グランプラザ中津ホテル（大分県中津市）において、平成22年度中津商工会議所　九州工業大学との産学連携交流事業　基調講演会が開催され、松永学長が講演を行いました。

「グローバル時代における大学の教育研究戦略」～地域協働から世界的拠点形成へ：九工大の理念と活動～と題した講演では、九工大の取組みを紹介しながら、グローバル時代におけるこれからの大学のあり方、産学連携による地域社会の活性化の重要性などについて語られました。

講演会には中津市、豊前市、宇佐市、豊後高田市などの地域の企業から150名を超える方が出席され、皆さん熱心に耳を傾けていました。

●科学で遊ぼう！夢テクノロジー2010 in 中津」を開催しました

愛宕久和中津商工会議所会頭の挨拶

松永学長の挨拶

平成22年11月23日(祝・火)、ダイハツ九州アリーナ（大分県中津市）において、「科学で遊ぼう！夢テクノロジー2010 in 中津」を開催。約12,000人もの方が会場を訪れました。

最先端の科学技術に触れ、遊ぶことで、将来を担う子どもたちに科学やものづくりの楽しさを感じてもらおうと中津商工会議所と共同で企画・開催したものです。

本学からは、プラネタリウムの実演、超伝導体による磁気浮上実験、折り紙ユニット、備長炭電池、風船ヘリコプターなど体験型のほか、今年鳥人間コンテストに出場した機体（KITCUTS)、GP-MONOプロジェクトの二輪レーシングマシンも出展。学生フォーミュラチーム（KIT-Formula）のマシンは走行のデモンストレーションも行いました。また、北九州高専

からロボコン出場チームの参加、小倉高校から竜巻発生の実演でご協力いただきました。

同会場には、ダイハツ九州をはじめとする域内企業14社と本学と連携事業を行っている大分県立工科短期大学校なども出展。大学、企業ブースとも多くの家族連れなどで賑わい、参加した子どもたちは目を輝かせ、歓声を上げていました。

会場には終了間際まで大勢の方が訪れ、盛況のうちに幕を閉じました。

KIT-Formulaのマシンに集まる子どもたち

超伝導体による磁気浮上実験

折り紙ユニットで多面体づくりに挑戦

フランスで打ち上げたロケットに興味津々

「エネルギーで遊ぼう！」のブースにて

大盛況の会場

18 八女市と包括的連携協定締結

調印式（左：三田村市長　右：松永学長）

固い握手を交わす関係者

平成22年9月17日（金）、本学は八女市と、地域資源を活用した産業の振興、環境の保全等に貢献することを目的として包括的連携協定を締結しました。

また、同日締結に関する記者会見を行い、本学より、松永学長、鹿毛研究・産学連携担当理事、白井教授、八女市より、三田村市長、松延市議会議長、北嶋副市長、橋爪副市長、牛島建設経済部長が出席しました。

本協定では、地場産業との技術連携・共同研究・人材育成をテーマに推進することとしており、当面は八女市の豊かなバイオマス資源の利活用について連携を図り調査研究を実施することにしています。

19 西日本シティ銀行と産学連携協力に関する協定締結

記者発表の様子

鹿毛理事による説明

平成22年8月2日（月）、本学は西日本シティ銀行と産学連携協力に関する協定を締結しました。本学が金融機関と、また、西日本シティ銀行が国立大学法人と産学連携協力に関する協定を締結するのは、今回が初めてとなります。

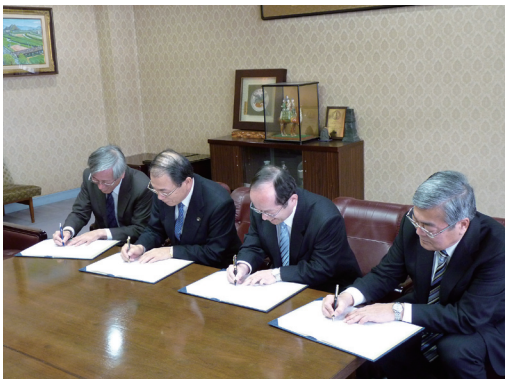
同日、北九州経済記者クラブ（北九州市小倉北区）において、締結に関する記者発表を行いました。会見には、本学より、鹿毛研究・産学連携担当理事、船津財務担当理事、西日本シティ銀行より、樋口副頭取（北九州・山口代表）、川本常務（北九州総本部長）が出席しました。

今後は、本学と西日本シティ銀行の取引先企業との技術・研究開発支援に関するネットワークの構築、人材交流や人材育成の促進、講演会や共同セミナーの開催、西日本シティ銀行の国際ネットワークを活用した国際化への対応促進などの連携を実施していきます。

記者の質問に答える樋口副頭取

最後に固い握手を交わす関係者

20 産学官金連携の協力推進に関する覚書を締結


締結式の様子

締結後固い握手を交わす関係者
（左から長谷川学部長、齊藤市長、工藤支店長、松永学長）

平成23年3月28日（月）、本学は、地域中小企業及び地域社会の発展に資することを目的に、飯塚市、近畿大学及び㈱日本政策金融公庫福岡支店と産学官金連携の協力推進に関する覚書を締結しました。

行政、大学と中小企業支援を目的とする政府系金融機関の連携は全国初の試みです。今後、本学としては、金融機関からのノウハウやサポート等の援助を受け、新産業の創出に向けて、地域中小企業の研究開発支援を進めていくことになります。

飯塚市役所で行われた覚書締結式には、松永学長、齊藤飯塚市長、長谷川近畿大学産業理工学部長（世耕理事長代理）、工藤日本政策金融公庫福岡支店長が出席しました。

記者発表の様子

出展、開催事業等一覧表

日時	項目
22.4.27 ～ 28	NCB（西日本シティ銀行）ビジネスフェアに出展
22.6.5	平成22年度産学官連携推進会議に参加
22.6.24 ～ 26	第50回西日本総合機械展に出展
22.7.30	CIC東京「新技術説明会」に参加
22.8.24	韓国大田広域市で技術交流会を開催
22.8.27	九州工業大学出前講座キャラバンin福岡を開催
22.9.29 ～ 10.1	イノベーション・ジャパン２０１０－大学見本市に出展
22.9.29 ～ 10.1	九州・国際テクノフェア/水素・エネルギー先端技術展に出展
22.10.12 ～ 14	第６回環黄海産学官連携大学学長フォーラムに参加
22.10.13 ～ 15	エコテクノ2010に出展
22.10.27	第10回学術研究都市「産学連携フェア」に出展
22.11.12	「九州工業大学出前講座キャラバン in 大分」を開催
22.11.16	ひびしんビジネスフェア2010に出展
22.11.18	北九州市発ライフイノベーション新技術説明会を開催（東京）
22.11.22	中津商工会議所・九州工業大学との産学連携交流事業 基調講演会を開催
22.11.23	「科学で遊ぼう！夢テクノロジー2010 in 中津」を開催
22.11.29	知的財産セミナーを開催
22.12.17	新技術説明会を開催（東京）
23.1.14	先行特許調査セミナーを開催
23.1.20	「九州工業大学出前講座キャラバン in 飯塚」を開催
23.3.22	第２回地域産学官連携シンポジウムを開催

平成22年度 共同研究一覧（190件）

※部局・所属：平成22年度現在　※職名：平成23年3月31日現在

部局	所属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研究題目
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	梅景　俊彦	非公表	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	梅景　俊彦	非公表	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	金元　敏明	本多機工株式会社	ロトジェットポンプ（特殊ポンプ）の研究開発
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	金元　敏明	非公表	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	鶴田　隆治	大陽日酸株式会社	液化窒素を利用したマイクロ波常温乾燥凍結の研究
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	鶴田　隆治	カゴメ株式会社	野菜の乾燥に関する研究
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	水垣　善夫	長崎県工業技術センター	多軸制御工作機械による工程集約型加工法の開発
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	橘　武史	大阪ガス株式会社	次世代エネルギー構成の検討
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	松田　健次	非公表	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	米本　浩一	非公表	新コンセプトによる極低温推進剤用複合材要素の研究
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	米本　浩一	非公表	再使用型宇宙輸送システムに向けた液体酸素用複合材タンクの基礎研究
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	米本　浩一	非公表	小型有翼ロケット実験機による飛行環境適合型最適誘導制御システムの飛行実証実験
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	米本　浩一	非公表	高速飛翔体の回収システムの研究（その2）
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	田川　善彦	財団法人日本宇宙フォーラム	国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士の筋骨格系廃用性萎縮へのハイブリッド訓練法の効果
工学研究院	機械知能工学研究系／教授	田川　善彦	非公表	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／准教授	河部　　徹	株式会社ケン・マツウラレーシングサービス	レースエンジン用バーチャルベンチの開発
工学研究院	機械知能工学研究系／准教授	黒島　義人	出光興産株式会社先進技術研究所	非公表
工学研究院	機械知能工学研究系／准教授	宮崎　康次	技術研究組合ＢＥＡＮＳ研究所	熱電半導体の高次ナノ構造形成と熱・電子物性の評価
工学研究院	機械知能工学研究系／准教授	平木　講儒	非公表	回収カプセルの空力特性に関する研究
工学研究院	建設社会工学研究系／教授	幸左　賢二	西日本高速道路株式会社九州支社	老朽化したPC版の健全度に関する共同研究
工学研究院	建設社会工学研究系／教授	永瀬　英生	非公表	非公表
工学研究院	建設社会工学研究系／教授	山口　栄輝	山九株式会社プラント事業部	モノレール主桁の老朽化診断技術の確立
工学研究院	建設社会工学研究系／准教授	木村　吉郎	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	白土　竜一	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	東芝三菱電機産業システム株式会社	インバータ駆動型巻き電動機絶縁に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	株式会社日本ＡＥパワーシステムズ	予防保全技術『油中部分放電検出に関する研究』
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	株式会社東芝　電力流通・産業システム社 浜川崎工場	ナノコーティングによる絶縁物のDC特性改善に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系／教授	匹田　政幸	株式会社東芝　浜川崎工場	GISにおける部分放電パルス伝搬／漏洩現象の調査・解析に関する研究

部　局	所　属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研　究　題　目
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	株式会社ジェイ・ パワーシステムズ	部分放電発生位置標定精度向上に関する実用化検討
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	日本ガイシ株式会社 電力技術研究所	ポリマーがいし用ナノコンポジット材料の研究及び開発
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	株式会社東芝　浜川崎工場	電力系統における特殊遮断責務に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	株式会社東芝　浜川崎工場	ガス中金属蒸気の拡散の測定に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	株式会社東芝　浜川崎工場	UHF法による油入変圧器の部分放電検出技術の高度化に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	東京電力株式会社	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	匹田　政幸	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	三谷　康範	有限会社プラス化建・ 工法研究所	バイオマスの生産と、電力変換機能を有し、太陽エネルギーを循環する家屋
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	三谷　康範	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	和泉　　亮	東洋ステンレス研磨 工業株式会社	希少金属節約を目的とした高耐熱、高耐食機能を有する薄膜の試作開発
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	和泉　　亮	キヤノン株式会社	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	和泉　　亮	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	大村　一郎	財団法人国際東アジア 研究センター	パワーエレクトロニクス機器の高パワー密度化に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	松本　　聡	スマートソーラー インターナショナル株式会社	グリッドパリティ実現への都市向低集光型太陽光発電システム開発
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	桑原　伸夫	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／教授	芹川　聖一	株式会社 セキュリティージャパン	耐冷熱カメラに関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	東京電力株式会社	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	E&C エンジニアリング株式会社	放電起因電磁波の伝搬特性及びその評価
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	東京電力株式会社 技術開発研究所	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	九州電力株式会社 技術本部　総合研究所	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	日本カタン株式会社	アークホーンの耐コロナ設計手法に関する研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	株式会社ロジカルプロダクト	電磁波可視化装置の主要素部品とESD対策技術の販用化開発
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	富士通テン株式会社	ESD対策技術の販用化開発
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	大塚　信也	東京電力株式会社	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	豊田　和弘	独立行政法人宇宙航空 研究開発機構	軌道上放電観測実験の検証
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	水町　光徳	日産自動車株式会社　総合研究所 モビリティ・サービス研究所	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／准教授	渡邊　政幸	非公表	非公表
工学研究院	電気電子工学研究系 ／助教	小迫　雅裕	サトーリサーチ株式会社	ナノアルミナ絶縁コート技術に関する基礎研究
工学研究院	電気電子工学研究系 ／助教	小迫　雅裕	東京電力株式会社	非公表
工学研究院	物質工学研究系 ／教授	横野　照尚	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系 ／教授	横野　照尚	株式会社メタルテック	高度な抗菌性・防カビ性を有する新奇な室内光（可視光）型光触媒塗料の開発
工学研究院	物質工学研究系 ／教授	横野　照尚	株式会社ケミカルクリエイト	複合型光触媒を用いたUV硬化型塗料の開発

部　局	所　属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研　究　題　目
工学研究院	物質工学研究系／教授	鹿毛　浩之	有限会社イタケン	マイクロバブルオゾン水利用による従来設備に比較した省エネルギー率５０％達成のための共同研究
工学研究院	物質工学研究系／教授	鹿毛　浩之	丸福水産株式会社	塗料等コーティング剤の微粒子化の特性に関する研究
工学研究院	物質工学研究系／教授	清水　陽一	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	清水　陽一	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	竹中　繁織	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	竹中　繁織	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	柘植　顕彦	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	柘植　顕彦	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	大谷　博司	財団法人くまもとテクノ産業財団	合金組成開発−LPSO相生成ﾒｶﾆｽﾞﾑ解明−（熊本県地域結集型研究開発ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 次世代耐熱ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ合金の基盤技術開発）
工学研究院	物質工学研究系／教授	大谷　博司	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	大谷　博司	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	大谷　博司	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／教授	松本　　要	財団法人国際超電導産業技術研究センター	1）超電導機器対応線材技術開発(高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究） 2）超電導電力機器の適用技術標準化
工学研究院	物質工学研究系／准教授	坪田　敏樹	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／准教授	山村　方人	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／准教授	山村　方人	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／准教授	山村　方人	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／准教授	山村　方人	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／准教授	高須登実男	三井金属鉱業株式会社	亜鉛電解における液流動と電解挙動の解析
工学研究院	物質工学研究系／准教授	高須登実男	財団法人くまもとテクノ産業財団	溶解・鋳造技術開発−溶解技術開発−（熊本県地域結集型研究開発プログラム 次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発）
工学研究院	物質工学研究系／准教授	廣田　健治	中央発条工業株式会社	汎用プレスによるバリ抑制せん断プロセスの最適化
工学研究院	物質工学研究系／准教授	廣田　健治	日本鋳鍛鋼株式会社	鍛錬効果の高精度評価技術の開発
工学研究院	物質工学研究系／助教	高瀬　聡子	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／助教	馬渡　佳秀	コスモ石油ルブリカンツ株式会社	バイオマスの熱分解生成物利用技術に関する研究
工学研究院	物質工学研究系／助教	森口　哲次	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／助教	森口　哲次	非公表	非公表
工学研究院	物質工学研究系／助教	森口　哲次	非公表	非公表
工学研究院	先端機能システム工学研究系／教授	趙　　孟佑	国立大学法人東京大学	日本発の「ほどよし信頼性工学」を導入した超小型衛星による新しい宇宙開発・利用パラダイムの構築
工学研究院	先端機能システム工学研究系／教授	趙　　孟佑	ＭＵＳＣＡＴスペース・エンジニアリング株式会社	平成22年度超小型衛星システム並びに衛星コンポーネントの試験・検証法に関する研究
工学研究院	先端機能システム工学研究系／教授	趙　　孟佑	トレック・ジャパン株式会社	極限環境に対応した超小型表面電位計の開発
工学研究院	先端機能システム工学研究系／准教授	高原　良博	株式会社黒木工業所	熱伝導性複合材料の開発
工学研究院	先端機能システム工学研究系／准教授	竹澤　昌晃	非公表	非公表
工学研究院	先端機能システム工学研究系／准教授	脇迫　　仁	株式会社プラテクノマテリアル	ペットボトルキャップリサイクル研究会

部　局	所　属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研　究　題　目
工学研究院	先端機能システム工学研究系／助教	岩田　　稔	ＭＵＳＣＡＴスペース・エンジニアリング株式会社	極軌道上の原子状酸素が衛星表面に及ぼす影響に関する研究
工学研究院	基礎科学研究系／准教授	中尾　　基	非公表	非公表
工学研究院	基礎科学研究系／准教授	中尾　　基	非公表	非公表
工学研究院	基礎科学研究系／准教授	中尾　　基	エア・ウォーター株式会社	非公表
工学研究院	基礎科学研究系／准教授	三浦　元喜	非公表	非公表
工学研究院	／特任教授	長谷部光弘	非公表	非公表
工学研究院	／特任教授	長谷部光弘	非公表	非公表
工学研究院	／特任教授	長谷部光弘	非公表	非公表
工学研究院	／特任教授	増山不二光	非公表	非公表
情報工学研究院	知能情報工学研究系／教授	江島　敏朗	ロボフューチャー株式会社	５指を持つロボットハンドの義手実用化
情報工学研究院	知能情報工学研究系／教授	瀬部　　昇	非公表	非公表
情報工学研究院	知能情報工学研究系／教授	乃万　　司	九州電力株式会社総合研究所	Webコンセント（EVコンセント）の機能向上に関する研究
情報工学研究院	知能情報工学研究系／准教授	榎田　修一	非公表	非公表
情報工学研究院	知能情報工学研究系／准教授	榎田　修一	非公表	非公表
情報工学研究院	電子情報工学研究系／教授	尾家　祐二	株式会社トヨタＩＴ開発センター	非公表
情報工学研究院	電子情報工学研究系／教授	松下　照男	財団法人国際超電導産業技術研究センター	1）超電導機器対応線材技術開発(高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究）2）超電導電力機器の適用技術標準化
情報工学研究院	電子情報工学研究系／准教授	松下　照男	九州電力株式会社	積層されたRE系超電導線材の履歴損失特性評価に関する研究
情報工学研究院	電子情報工学研究系／助教	黒崎　正行	株式会社安川電機	電力重畳型デジタル変復調通信技術の研究
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	井上　勝裕	パナソニック電工株式会社	非接触体動センサーによる個人適応型機器制御に関する研究
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	井上　勝裕	株式会社富士通九州システムズ	GPS機能付き携帯電話における高精度速度情報化の研究
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	小黒　龍一	非公表	非公表
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	岡本　　卓	非公表	非公表
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	小林　史典	新日本無線株式会社	次世代自動車用回転角検出センサ技術の研究
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	延山　英沢	非公表	非公表
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／教授	廣瀬　英雄	非公表	非公表
情報工学研究院	システム創成情報工学研究系／准教授	齊藤　剛史	株式会社東郷電機製作所	画像処理に基づく割り箸原形の外観検査システムの開発
情報工学研究院	機械情報工学研究系／教授	伊藤　高廣	三島光産株式会社	MEMS技術活用マイクロ金型の実用化研究
情報工学研究院	機械情報工学研究系／教授	木村　景一	ＪＳＲ株式会社	CMPにおけるパッド表面でのスラリーフローの研究
情報工学研究院	機械情報工学研究系／教授	木村　景一	非公表	非公表
情報工学研究院	機械情報工学研究系／教授	木村　景一	トーカロ株式会社	九州工業大学創立100周年記念共同研究アルミナ溶射皮膜の表面加工に関する研究
情報工学研究院	機械情報工学研究系／教授	堀江　知義	トヨタ自動車九州株式会社	抵抗スポット溶接における弾塑性接触・電流・熱伝導3連成解析の高精度化および3枚合わせ溶接条件の最適化
情報工学研究院	機械情報工学研究系／准教授	永山　勝也	非公表	非公表
情報工学研究院	機械情報工学研究系／准教授	永山　勝也	非公表	非公表

部　局	所　属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研　究　題　目
情報工学研究院	機械情報工学研究系 ／准教授	永山　勝也	トヨタ自動車九州株式会社	自動車塗装電着槽における内部流動の数値解析による最適化検討
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／教授	坂本　順司	株式会社　アール	環境浄化に関与する微生物叢解析
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／教授	清水　和幸	非公表	非公表
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／准教授	大内　将吉	ベセル株式会社	細胞培養におけるプロテオミクスの応用
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／准教授	坂本　　寛	非公表	蛍光タンパクを用いた生細胞内ヘム濃度測定法に関する共同研究
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／准教授	坂本　　寛	旭化成ファーマ株式会社 診断薬製品部	便潜血の新しい検査方法の開発
情報工学研究院	生命情報工学研究系 ／助教	引間　知広	ニチバン株式会社	微細針を用いた経皮吸収型製剤の研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	尾川　博昭	ダイヤモンド エンジニアリング株式会社	余剰汚泥減容資材の微生物群の解析及び有用菌の同定
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	金藤　敬一	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	味の素株式会社	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	株式会社武蔵野化学研究所	乳酸オリゴマーからのラクチドの製造方法に関する研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	株式会社エコウッド	気相重合により高度な耐候性が付与された木材・プラスチック再生複合材の研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	株式会社バンブーテクノ	竹の総合利活用に関する技術開発
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	FELDA PALM INDUSTRIES SDN. BHD.	WASTE-TO-WEALTH FROM BIOMASS THROUGH BIOTECHNOLOGY
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	財団法人新エネルギー財団	バイオマスによるバイオガス発生ならびに バイオマスエネルギー発電システムに関する研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井　義人	財団法人新エネルギー財団	バイオマスならびにバイオ燃料製造に関する環境・社会経済評価に関する研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾　一政	古河スカイ株式会社	アルミニウム合金のクラッド圧延の研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾　一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西野　憲和	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西野　憲和	有限会社ペプチドサポート	疾病関連酵素検出システムの開発
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西野　憲和	独立行政法人理化学研究所	新規エピジェネティクス作用薬の創製
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬　修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	春山　哲也	荏原実業株式会社	オゾン処理プロセスによる細胞接着・非接着パターン化基板の製作

部　局	所　属／職	研究者名	共同研究先企業等名	研　究　題　目
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	横井　博一	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎　敏樹	石の癒株式会社	光冷暖システムの理論的体系付けの研究
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／教授	粟生　修司	味の素株式会社	非公表
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／准教授	宮本　弘之	非公表	非公表
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／准教授	我妻　広明	独立行政法人理化学研究所	ダイナミックブレインプラットフォーム(PF)の構築
情報科学センター	／助教	林　　豊洋	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	石原　政道	富士機械製造株式会社	新型LEDパッケージ実装技術の研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	石原　政道	凸版印刷株式会社	新型LEDパッケージ用リードフレームの研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	石原　政道	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	石原　政道	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	船井電機株式会社 開発技術本部	カーPCに関する研究開発
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	OKIセミコンダクタ株式会社	音響に関する研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	株式会社イーシーエス	車載ＰＣに関する研究開発と標準化
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	株式会社キットヒット	音響センサによるセンシング技術の研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	株式会社オンガ エンジニアリング	農業に応用可能な小型気象センサの開発研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	東京エレクトロン 東北株式会社	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	株式会社キットヒット	リアルタイム血圧計測可能な小型モバイル健康管理 機器の開発
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	ローム株式会社	アクティブノイズキャンセル技術に関する研究開発
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	非公表	非公表
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	佐藤　　寧	株式会社ウェザーニューズ	車載装置・圧電素子・音声認識・無線通信技術を応用した 気象観測の可能性調査に関する研究
産学連携推進 センター	若松分室 ／教授	山田　久文	石の癒株式会社	光冷暖システムの理論的体系付けの研究
ネットワークデザイン 研究センター	／教授	阿留多伎明良	非公表	非公表
エコタウン実証 研究センター	／教授	西田　治男	株式会社 創和技研	合成床版に使用するバイオマスプラスチックを用いた モニタリング孔用型枠の開発

産学官をつなぐ強い味方 ―― コーディネータ & 職員紹介

●コーディネータ

○氏名

田中　洋征（たなか　ひろゆき）《客員教授》事業化プロデューサー

○専門分野

機械工学（材料強度、疲労、溶接強度）、研究開発マネジメント

○自己ＰＲ

これまで、大学・官庁・国公立研究機関及び産業界とのネットワークを活かして１５０件以上の共同・受託研究をコーディネートし、事業化の成功事例も経験してきたことから、共同研究等のノウハウ等に精通しています。

事業化を前提にした産学官共同研究を希望される方は気軽に声をかけてください。

○氏名

小川　勝（おがわ　まさる）《客員教授》事業化プロデューサー

○専門分野

化学（化学一般、ゴム・プラスチック、FRP、セラミック）、研究開発マネジメント、特許管理、その他IT関係を除くバイオ、環境技術を含む広域分野

○自己ＰＲ

東陶機器㈱研究所長、技術開発部長、特許管理部長、環境管理部長を歴任する中で全国レベルでの多くの人脈を得ています。また、福岡県産業・科学振興財団カタライザー及びマッチングコーディネータ等を務め九州地区の大学、公設研、および企業等に人脈を有しています。

これまでに、産学（官）共同研究をコーディネートした結果、成功した助成金・補助金等の金額の累計は、11年間で37億円に達します。広い分野において研究開発企画、共同研究における産学のまとめ方、事業として成功するノウハウおよび申請のポイント等に精通しています。

○連絡先

自宅　電話／FAX　093-522-5065　　携帯　090-5087-7194

E-mail　ogawa-ma@estate.ocn.ne.jp

○氏名

波多江　俊一（はたえ　しゅんいち）

○専門分野

パイプライン建設、建材の開発＆設計および販売

○自己ＰＲ

鉄鋼メーカーにてガス、水道および石油等のパイプライン建設に約１０年間携わり、その後、鉄鋼2次製品を使用した建材の開発、設計および販売の業務に約２４年間従事しました。また、これらの業務と併行して建材の官民共同研究、産学共同研究に取り組みました。今までの物づくり、物売りのノウハウが社会へ貢献できる企業、大学および地域を構築する一助になれば幸いに存じます。地域社会ひいては世界の発展と幸福に貢献できる技術情報は喜んでお受けしますのでよろしくお願い致します。企業と大学の相互通行を案内します。

○氏名

堀田　計之（ほった　かずゆき）

○専門分野

電気電子　アナログ ＥＭＣ(電磁環境両立性)

○自己ＰＲ

家電メーカーにて商品開発　商品企画を経験の後、電子機器企画設計会社を経営。

マーケット数量の多い商品化ノウハウ、安全面を考慮したコストダウン、安定品質の量産化技術など、シーズ検索からマーケットインまでご協力できます。

アナログ技術を活かしたＥＭＣ設計手法に関して、福岡県技術アドバイザー、山口県技術アドバイザーを委嘱されておりました。これまでの経験を生かし、地域の若手電子技術者育成にも微力ながら協力しております。

○氏名
山崎　博範（やまさき　ひろのり）
○専門分野
機械工学（製品開発、生産設備設計、プレス金型）
○自己ＰＲ
家電製品開発設計、半導体用ロボットや自動機、生産設備の開発設計、プレス金型設計等、幅広い分野の機械の開発設計に長年携わってまいりました。これらの経験を活かし、産のニーズと学のシーズのマッチング、産学官連携に少しでもお役にたてればと思っています。
○連絡先
E-mail　hi-yamasaki@jcom.home.ne.jp

○氏名
石井　宏一（いしい こういち）
○専門分野
研究開発PR、バイオテクノロジー、材料加工、電子デバイス
○自己ＰＲ
その昔、メカトロニクスのエンジニアとして社会への第一歩を踏みだしましたが、長年にわたって、研究開発分野を中心にした企業の広報活動、新卒採用PRを手がけ、自身の取材によって執筆活動も行ってきました。
「工学」の専門家ではありませんが、いかにシーズを魅力的なものとして表現していくかについては、多くの企業・団体の印刷物やWebサイトの制作を通じて様々な経験を積んで参りました。企業と研究を媒介する、と一言で申しましても、このふたつの分野には互いにコミュニケーションできる環境がまだ十分には育っていないのではないかと考えています。専門化と細分化が進む現在のエンジニアリングの中で、いかに市場に向かって新しい価値を生み出していくか、それは、印刷物やWebコンテンツと同様に、技術を「編集」して、情報を発信する側と受け取る側にコミュニケーションを構築していく作業だと考えています。

○氏名
荻原　康幸（おぎはら やすゆき）
○専門分野
ソフトウェア・プログラム
○自己ＰＲ
学部、大学院と九州工業大学にお世話になってまいりました。学生時代はeラーニングの研究を、研究以外ではRoboCupに参加し、ロボットのソフトウェア開発を行いました。
また別の大学では研究員を経験し、eラーニングの開発・運用に携わり、学生時代から現在まで、公私ともにソフトウェアの開発を行ってきました。
産学官連携の仕事は初めてですが、九州工業大学および産業の発展ために少しでもお役に立てるように努力していきたいと思います。どうぞお気軽にお声をおかけください。
ちなみに最近の趣味は山登りと写真です。

●職　員

○センター長（教授）	鹿毛浩之
○副センター長（教授）／ベンチャー支援部門長	小田部荘司
○知的財産部門長（教授）	中村邦彦
○リエゾン部門長（教授）	佐伯心髙
○教育支援部門長（准教授）	小西直樹
○国際部門長（教授）	菊地晋一
○戸畑本部	
・地域連携マネージャー（准教授）	砂入成章
・地域連携マネージャー（客員准教授）	神野右文
・知的財産マネージャー（客員教授）	安東静
・知的財産DNAマネージャー（客員教授）	尾仲武基
・知的財産マネージャー	石田精
・安全保障輸出管理チーフアドバイザー	鈴木勇次
・産学連携アドバイザー	金井忠廣
・国際渉外・法務担当	兒嶋崇之
・技術交流会担当	安田清美
・事　　務	楠根香代
・事　　務	野依祥子
・事　　務	内田菜保子
○飯塚分室	
・飯塚分室長（准教授）	小西直樹
・事　　務	柴田麻理子
○若松分室	
・若松分室長（教授）	石井和男
・教　　授	佐藤寧
・研　究　員	龍敦子
・事　　務	宮原敬子